



藤沢市医師会のコロナウイルスに 対する取り組み



藤沢市医師会 副会長 加藤葉子

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、私達の日常は随分と変わってまいりました。

当初は世界中から PCR 検査数の少なさを批判されながらも、クラスター追跡と日本人の生活習慣なり文化なりがなんとなく功を奏して、新型コロナウイルス感染症による死者数が顕著に少ない状態を現在までキープしています。

国も PCR 検査の拡充には本腰を入れ、これからは検査による感染症の選別の上に日常生活が営まれるという世の中にシフトして行く様です。2月には帰国者接触者相談センターに中々繋がらなかった検査依頼が、今では各群市医師会や各医療機関でも可能になって、医師の判断で検査がオーダー出来ている状態です。

藤沢市医師会では、県下でも早く4月28日からドライブスルーによるPCR検査をスタート致しました。

6月2日からはウォークインでのPCR検査となりました。行政との調整も資料の調達も初めての事ばかりでしたが、医師会総出で事故なく検査が出来ている事が何よりと思います。



藤沢市医師会のPCRセンターでは、6月26日迄で165人検査したうち、1名が陽性でした。この結果を知るだけでも日常診療の不安が軽減されるのではないのでしょうか。

介護施設や在宅の患者さんに対しての対策が遅れがちでしたが、PCR検査がやっと身近になって来た事によりクラスター対策として、又往診に行かれる先生の感染リスクの軽減策として診療の一助となると思います。

未だ課題はありますが新型コロナウイルス感染症の研究及び対策は目覚ましいスピードで進んでいます。

ワクチンが完成し特効薬が見つかるまでは、唾液によるPCR検査や精度が上がった抗体検査を取り入れながら、「新しい日常」を続けて行かなければならないと思います。



今年度の研修会・講演会については、未だ決定していませんが、決まり次第ホームページでお知らせします。

尚、地区別懇談会については、中止させていただくことが決定しましたので、宜しくお願い致します。



はしば泌尿器科皮膚科クリニック

榛葉 隆文

4月上旬に突然私のところに原稿依頼が舞い込んできました。すでに泌尿器科や皮膚科で現在進行形で熱心に往診をされている先生方がおられる中、現在往診件数が0の私は依頼を固辞したのですが、過去の内容等でも良いとのことでしたのでお引き受けした次第です。

私の最後の往診は、泌尿器科が平成26年9月で、この患者さんは寝たきり状態の方でカテーテル交換を約13年間行いました。皮膚科は平成28年3月で、この患者さんは外来からの移行で歩行困難となり往診となった方で、主な疾患は皮膚掻痒症でした。いずれの方も旅立ちにて往診が終了となりました。

当時の私は昼休みに往診を行っており、往診日の午後の診療に間に合うかビクビクしながらやっておりました。そのため皮膚科の繁忙期となる夏場の往診日は、午前の診療を通常より早く終了し対応しておりました。この時の反省を踏まえ、往診時間は昼休み以外を考慮すべきと現在考えております。

いくつかの条件が重なり往診を一度休止と致しました。詳述は致しませんが過去の反省や、その後思いついた工夫などから、今回カテーテル交換や褥瘡処置等の往診を再開すべく準備を行っております。

現在漢方的なアプローチも行っておりますので往診の要望等ございましたらご連絡いただければと思います。

